

お薬のしおり

肺炎球菌ワクチンについて No.97 (H21.11)

東京医科大学病院 薬剤部

肺炎球菌とは

肺炎球菌は、通常私たちの鼻や喉に存在している細菌です。この菌がいるからといって症状が出るわけではないのですが、何らかの理由で体の抵抗力（^{めんえき}免疫）が低下したときに感染症を発症します。

この肺炎球菌による感染症にかかりやすいのが、高齢者や免疫がまだ十分に発達していない子供なのです。特に子供では、^{すいまくえん きんけつしやう}髄膜炎や菌血症などの重症感染症により重い^{こういしやう}後遺症を残したりすることもあります。また、高齢の方で特に心臓や呼吸器に慢性疾患のある方、腎不全、肝機能障害、糖尿病のある方などでは、肺炎が重症になる傾向があります。

肺炎による死亡率は、がん、心臓病、脳卒中について高く、また、ペニシリンなどの抗生物質に対する耐性菌が増加してきたため治療が困難になってきています。そこで肺炎球菌ワクチンによる予防がますます大切になってきます。

肺炎などの予防

肺炎をはじめとするさまざまな病気から、身体を守るために日頃から心がけたいこととしては、外から帰ったらうがいや手を洗うなど基本的なことを励行することが大切です。また、天気の良い日には外へ出て陽光を浴びたり、散歩など適度な運動をしたり、入浴などにより体を清潔に保つことなども大事です。



肺炎の予防についていえば、肺炎のすべてを予防できるわけではありませんが、肺炎球菌ワクチンの接種も重要です。肺炎球菌には約 80 種類の型があり、ワクチンの接種により、そのうちの 23 種類に対して抵抗力をつけることができます。肺炎球菌による感染症の 8 割は、この 23 種類が占めるといわれているため、かなりの数の肺炎球菌による感染症を予防できる可能性があります。

ただし、このワクチンの効果は 5 年程度であるといわれており、それ以上の期間が経過すると抵抗力が低下してしまいます。これまで日本国内では、こうした場合にワクチンを再び接種することは副作用の危険性が増すという理由で禁止されてきました。しかしながら、最近の調査結果から、安全性に問題がないことが確認されたため、再接種が認められるようになりました。

このように、高い予防効果が期待できるワクチンですが、2 歳未満の乳幼児では免疫機能が未熟であるため、このワクチンでは抵抗力をつけることが出来ないという問題があります。

乳幼児のための肺炎球菌ワクチン

現在の国内にある肺炎球菌ワクチンでは、乳幼児に十分な抵抗力をつけることはできません。しかし、米国などでは乳幼児に対して有効な肺炎球菌ワクチンが既に使用されており、これを 2000 年より定期接種した結果、5 歳未満の肺炎球菌による感染症が著しく減少したことが報告されています。日本でもこの乳幼児に有効な肺炎球菌ワクチンの導入の準備が行われているため、子供の肺炎球菌による感染症の危険性を下げることが期待されています。

肺炎球菌ワクチンの接種や再接種に関しては、かかりつけの医師と良くご相談して下さい。また、ワクチンに関してご不明な点がありましたら、薬剤師にご相談下さい。

